炬火を掲げていざ謳う　No.73

我らの泉鳥取

2024年4月16日（火）
編集　泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会
大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10
https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html

課題のある生徒に寄り添って

教育相談委員会　（2002～）

21世紀に入り、学校では学校不適応の事例が多くなってきました。国は2000)(平成12)年に「児童虐待防止法」を制定、大阪府も2003(平成15)年に「子どもライフサポートセンター」を立ち上げ、無気力、不登校、ひきこもり等に対する体制を整え始めました

同じころ、本校では一人一人のきめ細かい対応が必要になり、「教育相談委員会」を立ち上げます。委員の構成は、設置当初は各学年１人、生活指導部から2人、養護教諭１名と外部人材であるハートケアサポーター、府から派遣されるスクールカウンセラーで構成されていました。教育相談の現状を令和5年度教育相談委員長であった大林直子先生（令和6年、すながわ高等支援に転勤）に聞いてみました。

友人関係、学習面、家庭のことや進路等で生徒が悩んでいる時に支援をするために教育相談委員会があります。時間割の中で１時間教育相談委員担当の教職員が集まり、生徒の情報共有をして、教員で見守る体制をつくっています。

これまでの流れを受けて、困っている生徒がより良い学校生活を送れるようスクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）につなげ、相談するのは支援教育委員会と教育相談委員会が連携して行っています。その成果として、３年生になり進路決定をする際に、本人の特性である発達障がいと向き合い療育手帳を取得した生徒もいました。その他にも保護者もカウンセリングを受け、子どもとの良好な関係を築き始めることができた家庭もありました。

さらに、外部の先生に来ていただきケース会議を年間３回行っています。具体的には支援学校の先生や支援教育コーディネーターの皆さんですが、個別の教育支援計画を見ながら、発達障がいの生徒の見立て（アセスメント）や支援の方法を助言していただいています。その中で字が乱れる生徒にWAVESという検査を支援学校で行っているというお話を聞きして、本校でも数名に実施し、トレーニングを続けて文字が上達した生徒もいました。

教員対象の研修も行っており、講師の先生を外部から来ていただき、ピア・メディエーションの研修をし、生徒を中立な立場で仲裁することの重要性や難しさを知ることができました。

2022(令和4)年度に支援教育委員会と修学保障会議が発足、日常の生活介助や「個別の教育支援計画」などは支援教育委員会、教育相談委員会と支援教育委員会から「個別の指導計画」「個別の支援計画」に基づいて、個別の教育目標の最終決定は修学保障会議で対応しています。

生徒相談室

令和3年度まで毎日開室、生徒の相談に乗っていた。